

【環境首都検定が教えてくれたこと】

福岡県

北九州市立洞北中学校

二年

中山

葉万子

節水をしなさい、水を大切にしなさいなどたくさん言われてきたけれど小さい頃私は蛇口からいくらでも水は出るのだから無くなりはないと思っていた。だから、夏にはたくさんのお水を遊ばせてくれた。

小学校六年生になった年、祖母に勧められ北九州市環境首都検定という試験を受けてみることにした。私は、環境首都検定というものをどのようなのか知るために祖母に借りた問題集を開いてみることにした。そこには北九州市の環境のことについてたくさん書いてあった。その中で私が気になったのは、洞海湾が五〇年以上前死の海と呼ばれていたという内容だった。私は、その内容を見て驚いた。今は、まったく汚れておらずきれいな海だからだ。

かつての北九州市は、工場や家庭からの排水により河川や海は汚れ、洞海湾は大腸菌もすめないとまでいわれた。水の汚れは飲料水や食物を通して直接人の健康をおびやかすだけでなく、水道にかかるコスト増や生態系への影響という形で生活にかかわる。北九州が誕生した一九六三年当時、下水道普及率は、わずか一パーセントだったのが二〇二三年には九九・九パーセントになっていた。現在、私たちは一人一日あたり二一〇リットルの汚水を出しているがその汚れた水は新町、日明、曾根、北湊、皇后崎の5つの浄化センターで処理され再生しているようだ。

他にも、環境首都検定は蛍のことに書いてあった。きれいな水でないと生きていけない蛍の幼虫は水中、サナギは川岸の土の中、成虫は陸上で過ごすため、蛍がたくさんいることは河川全体の環境が良い状態であるといえる。蛍が見られるようきれいな水を保つため市内愛護団体とともに参加するなど自治体を越えた交流も行っている。だから近年では六〇を超える河川で蛍が確認された。

私は、小さい頃蛇口からいくらでも水がでると思っていたけれど、私たちが使った水は、五カ所もの浄化センターが毎日、私たちが汚した水をきれいにしていてということに環境首都検定を通して学んだ。実際、地球上にある私たちが飲む水の量は〇・〇一パーセントしかないといわれており、少なさに私はとても水の無駄遣いをしていたなと思ったし、節水をしなさい、水を大切にしなさいという意味がわかった。

私は、これから水を大切にするために、蛇口をひねったら、すぐに止める。お風呂を入れたらなるべくシャワーは使わない。お風呂の水を洗濯水に使う。お風呂の水を花壇にやる。お皿を洗うときは、水をボウルにためて洗う、トイレのレバー小を使う、お皿などについた汚れや油をティッシュなどで拭いてから洗うなど。また、水をきれいにするには、川や池にゴミを捨てない、食べ残しはしないなど、これからも取り組んでいきたい。